



# 緑丹会 LETTER vol.3

兵庫医科大学緑樹会兵庫北部支部会会報



～ごあいさつ～

倉橋 卓男

(公立八鹿病院 救急科・総合診療科・S54年卒・剣道部)

私は、兵庫医科大学第2期生（昭和54年卒）です。自治医科大学と同じく、へき地医療の充実のために兵庫県が養成した医師の一人です。これまで但馬地域（兵庫県北部に位置し県面積の25%を占めますが、人口はわずか3.5%程度、高齢化率は38%以上です）に派遣され、2年前にはセミリタイヤし年齢（68歳）に無理のない程度に医療活動をしております。そろそろリタイヤの時期が近づいてきましたので、医療に関する自分史を今回の緑丹会レターのテーマにさせていただきますのでご了承願います。

## 地域医療Ⅰ：高齢化における保健・医療・介護福祉複合施設整備

私は、1979年（昭和54年）兵庫医科大学を卒業後、旧県立尼崎病院で2年間の各科ローテーション研修を受け、さらに公立豊岡病院外科で3年間の研修後、系列病院である公立出石病院（現公立豊岡病院出石医療センター：50床、親病院から自動車で30分程度）に派遣されました。当時の病院医療環境は、これでは誰も受診や入院したく無いのではと思われる状態でした（何故か頭部CTは有りました：笑い）。仕事も暇な状態で、若気の至りだったのでしょうか？地元患者さんは地元病院で診たいと考え、まずは地域の検診事業に積極的に従事することとし、当時、検診後の精査目的で内視鏡検査等は町がバスを仕立て2時間程度離れた県立柏原病院（現県立丹波医療センター）で受けておられましたので、積極的な上部消化管内視鏡・超音波エコー等の検査を出石病院で受けていただく様になりました。それにより胃癌患者や胆石症患者がピックアップされ、全身麻酔手術も増えていくことに繋がっています。また、当時から旧出石郡（出石町&但東町）では高齢化や老々介護が問題となっていたため、保健・医療・介護福祉の連携・充実が必要な状況でした。在宅診療や両町の保健師さん達との連携を深め、現状問題点の共有をしていきました。1991年（平成3年）に病院長就任からは地元町長や議会議員さんたちと昼・夜（主として飲み会 笑）にお会いする機会が増え、気軽に医療行政を語り合う中で、当時の町長さんから「広い土地が確保出来るのだが、地域住民に有効活用するためにはどうすればいいと思う？」と言われ、即座に「保健・医療・福祉複合施設群構築」を進言し了承していただきました。1993年（平成5年）春「出石医療・福祉ゾーン整備検討委員会」が立ち上がり、まずは当時全国に数か所の同様な施設群が在りましたが、その中から1994年（平成6年）広島県「御調総合病院」、1995年（平成7年）鳥取県2か所を町会議員さん共々見学し、最終的に「米子ホスピタウン」を参考とし施設群の整備が開始されました。予算的にワンオーナーでの全ての建築・運営は無理で、病院・保健センターは公的建設、その他は私的業界誘致での整備となりました。特別養護老人ホーム・老人保健施設（グループホーム含む）・眼科開業医・出石応需薬局（但馬公立病院で初の院外処方開始）、訪問看護ステーション整備へと続き現在の状況となっております。（図1参照）

## 地域医療Ⅱ：地域救急医療の充実

高齢化に対しての保健・医療・福祉介護のトータルケアモデル施設群の充実・発展を頑張ろうとしていた矢先、2005年（平成17年）に突然、豊岡病院組合管理者に呼び出され、次年度新公立豊岡病院併設の但馬救命救急センターに、正規職員が居ないと開設ができないから、外科系救急医として就任するよう命令されました。すでに公立出石病院次期院長は決定しているとの事で、一度はお断りしましたが、最終的に救急も大事かと判断し、救急医療の経験は有りませんでした。しぶしぶ就任することとなりました。当時は各科医師の協力で救命救急センターを運営維持している状況で、さらに全国的にコンビニ受診が横行しており、各科医師の疲弊が進み当直拒否の運動が勃発してしまいました。市民の代表である市長及び病院議員を動員し、市民に対してコンビニ受診を減らす活動をしていただく事で、どうか医師の継続協力を得ることができた次第です（悲しいかな病院議員さんが切迫する病院医療実情をご存じでない事が判明しました）。ほっとしたのもつかの間、2010年（平成22年）4月から兵庫県・京都府・鳥取県3県合同のドクターヘリ事業を但馬救命救急センターで開始する話が持ち上がりました。当時、救命救急センター配属医師はたったの4名であったため、運営が困難であることを再三伝えましたが、行政の考えは変わらず話が進むため困っていました。幸い、当時済生会千里救命救急センターで先進的なドクターカー運営をされていた、小林誠人先生が数名の救急医と専属看護師を引き連れてセンター長として運営協力を申し出ただき事なきを得た次第です。皆さんご存じのように、ドクターヘリ活動（図2参照）は日本一の要請数を誇り、同時にドクターカー事業も開始され、3次救急までの対応が充実し、但馬の地域住民に対して大きな安心安全を与えることができるようになりました。私は当時56歳となっており、ドクターヘリ活動含め3次救命救急での活動が体力的に厳しくなり困っていたところ、現在の公立八鹿病院救急科・総合診療科に来てくれないかとお誘いを受け、2011年（平成23年）10月から一人救急専門医として活動させていただいております。救急車搬送される患者さんは、超高齢でDNAR codeの方も多く、重度外傷・循環器&超急性期脳血管疾患以外は3次救命に少しでも負担をかけないように、若い内科医の協力を得ながら入院加療をお願いしている次第です。

以上、長々とこれまでの歴史（自分史）にお付き合いいただきありがとうございました。最近の兵庫医科大学卒業生さんは、進級のための大きなハードルを乗り越えてこられただけあって医療人として、また、人間性も素晴らしい先生が多く頼もしく感じている次第です。今後、都市部でも急速な高齢化問題を抱えた新時代に突入し大変ですが、益々のご活躍を期待しております。



(図1) いずし保健・医療・福祉複合施設



(図2) ドクターヘリ事業





## ～篠山病院の思い出～

山田博

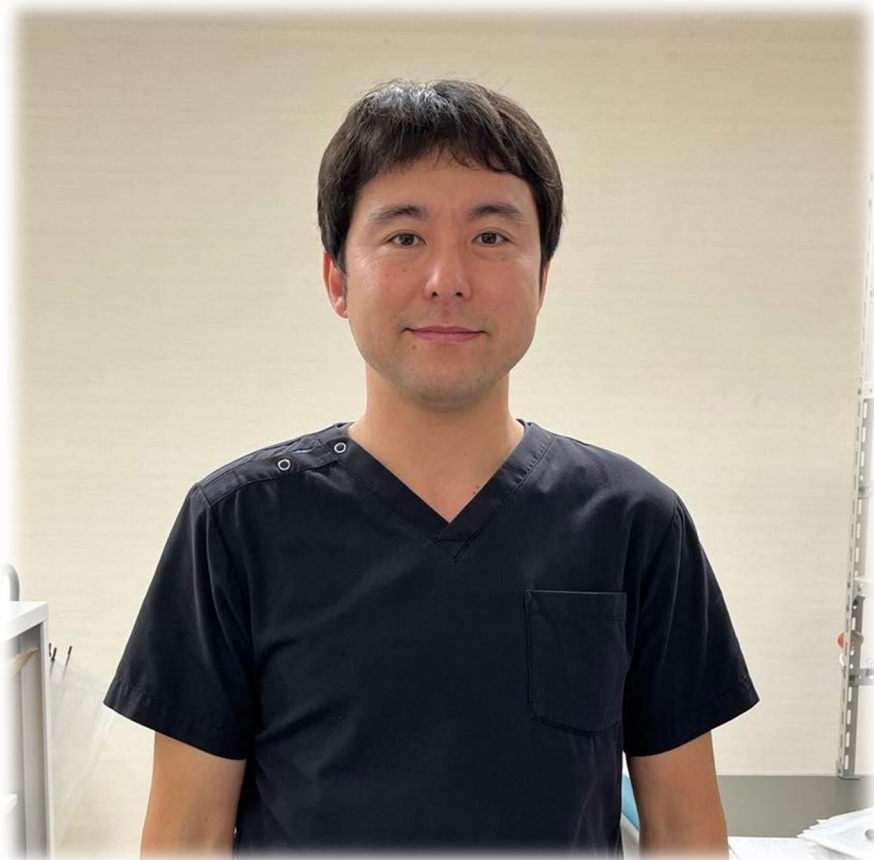
(やまだ整形外科クリニック院長・S57卒・バスケットボール部)

篠山病院OBの整形外科・山田博です。私は国立篠山病院が1997年10月に兵庫医大篠山病院へ移行した際に、整形外科の立ち上げのメンバーとして宝塚市立病院から赴任しました。移行前の9月末に地元の大きな会館で医師、看護師、事務職が集まって盛大な開院記念の会が開催されたのを昨日のこのように思い出します。当時の篠山病院は築後50年位の国立篠山病院をそのまま引き継ぎましたので、古い建物ですきま風が入るような状態でした。特に、冬の朝は病室が0度になるような状態で、ベッドに電気毛布をいれても底冷えがして患者さんの管理が大変でした。

病院としては、地域医療を支えるのを使命としていましたので、夜間救急の受け入れ、各科のオンコール体制の確保、地元医師会との連携と、地域に受け入れられる病院を目指して職員一同団結して頑張っていました。初代院長の立石先生は、医師や職員に非常に理解のある先生で、皆の意見を取り入れて病院をより良い方向へ変えて下さいました。整形外科は院長の立石先生、私、助手の松田先生と研修医の2人と言う体制で、外来、入院、手術と毎日忙しく働いていました。松田先生は移行前から国立病院にいた先生で、松田先生のお陰で、整形外科のスタートは非常に順調でした。忙しい中も、先生方との会食で地元の「奥栄」「いわや」「こけし」「潯陽楼」「近又」「大手食堂」等々、美味しい食事で疲れを取ることができました。国立篠山病院からほとんどの看護師、事務員を引き継ぎましたので全員が知り合いのようなアットホームな病院でした。更に、忘年会や病院全体のゴルフコンペと言った催し物で各科の医師同士や職員との距離も近く、忙しいですが働きやすい環境でした。1999年6月にリハビリテーションセンターが新たに建設され、同年9月には老人保健施設が新たに建設、オープンとなりました。その時点でも病院は国立病院をそのまま使っていました。

私は3年間務めた後、2001年44歳の時に神戸市中央区で開業しましたが、その後も10年以上学生実習のお手伝いで、月一回篠山病院へは行っておりました。2010年6月に新病院へ移転してからも3年程は毎月篠山へお邪魔して、兵庫医大として立派な病院へ変わっていくのを、目にしておりました。私のいたあのすき間風の入る病院が、最新の病院となり私も65歳になった今、月日の移り変わりを実感しております。





## ～縁を大事に～

金田好弘  
(兵庫医科大学ささやま医療センターリハビリテーション科助教  
平成21年卒 野球部・バドミントン部)

平成21年卒の金田好弘と申します。現在はささやま医療センターのリハビリテーション科として勤務しています。私は兵庫県養成医として大学へ入学し、卒業後は公立豊岡病院の総合診療科として5年間僻地医療に従事しておりました。その後9年目までは養成医として勤務を継続する予定でしたが、叔父が急逝したため5年で養成医を辞め、病院を継承することとなりました。半人前の私が1人で出来ることは限られている中、協力してくれたのが当時柏原赤十字病院の院長をされていた片山覚先生でした。片山先生は豊岡病院勤務時代に同じ但馬地域で医療を行っていた養成医の大先輩でしたが、一緒に働いたことはなく顔を知っている程度でした。それが、私の窮状を知り応援医師の派遣をしていただきました。その後、いろいろあって平成27年に兵庫医科大学リハビリテーション科医局へ入局し、平成29年にささやま医療センターへ配属となった際に片山先生も院長として赴任されました。また、総合診療科の太田先生は豊岡病院で麻酔科として非常勤で勤務されている際にお世話になり、その他にも以前お世話になった先生が同じ医療圏の丹波医療センターへおられるなど、様々な縁に助けられています。

このようにいろいろな人にお世話になりながら、なんとか医師をやっているうちに気付けば中堅と言われる年になってしまいました。一人前になれたかどうか微妙なところですが、多くの先生に助けてもらった分を若い先生方に還元していきたいと思っています。そして、これからもいろんなところでいろんな縁があると思いますので、それを大切にして頑張っていきたいと思います。今後ともよろしくお願いたします。



## ささやまOBによる“丹波篠山いいところ発見”

## ～私が篠山に赴任して第二の故郷となった理由～



宇野津雅哉

(宇野津整形外科医院・H5卒・写真部、卓球部)

平成5年卒業の宇野津雅哉です。この度は中山真美先生から「篠山の良いところ発見」をテーマに寄稿させて頂く事になり、第二の故郷ともいえる篠山に平成13年から平成15年まで赴任しておりました篠山への感謝もかねて書かせていただきます。

平成13年に整形外科医局の人事異動で当時立石博臣院長、松田泰彦部長のもとで医長として赴任させて頂きました。この時はまだ国立篠山病院の時からいらっしゃる方が多く、かなりアットホームな雰囲気です。大学病院の分院としての役割は大学生の臨床実習の教育、研修医の教育でした。当時研修医で来られていた圓尾圭史先生や米田信介先生、他今でも活躍されている先生と一緒に楽しく仕事が出来た事は良い思い出です。テーマから離れてしまいましたが、良いところ発見を赴任した時から順に書こうと思います。赴任して先ずは歓送迎会で定番であった『奥栄』という猪肉料理専門店ですが、本当に山の中にポツンとしており、中に入るとお座敷ですが、炭火の卓が並んでおり風情を感じながら猪肉鍋を中心に田舎料理が堪能出来ました、今でも忘れられないお店です。奥栄に並んでまた、こんなところにポツンと『いわや』さんもかなりの雰囲気です。いわゆるぼたん鍋は街中では大手食堂が観光客にも人気で当時、本院からの臨床実習で篠山に来られた時に毎週火曜日にぼたん鍋を食べに行ったものです。ぼたん鍋の味付けの主体になるお味噌もお店によって異なり、今でも時々お味噌だけを買に行ったりします。猪肉は高たんぱくでビタミンBも豊富で鍋の具材も白菜とゴボウが多く、更に黒豆のお陰で長寿の方も多いのではと云われてます。猪肉のことしか述べていませんが勿論神戸牛の生産もお隣の三田市と共に生産されており、牛肉も美味しい事は皆様ご存知の通りです。また小京都とされている篠山の街並みは山陰道、山陽道の間位置するところの場所に西国の天下普請のために作られたようです(歴史に詳しくないので申し訳ないです。)その後作られた大書院は火事で焼失後も私の赴任時に再建され美しく篠山の街を象徴しています。当時の今田町も登り窯を使った焼き物の町として古くから丹波焼が多く、陶器ファンの聖地のように窯元巡りをされる方が年中観光にいらっやいます。篠山周辺には距離はあるものの数ヶ所温泉があります、勿論兵庫県は火山地帯ではないので地盤が摩擦して湧く非火山性温泉で当時ドライブがてら行ったものです。篠山は大阪都心部からのアクセスが良く、自然愛好家として大阪から移住してくる方も多いと聴きます、周辺ゴルフ場も多く、人生のなかで休憩出来る最適な場所としてお勧めします。観光シーズンは混雑しますが、シーズン直後に行くことをお勧めします、今こうやって原稿を書きながらあの患者様や先生方、どうされてるか回想しています。都会の流行りのチェーン店も気になりますが都会にないものが篠山にはいっぱいあります、旅行で行くよりは住んでみることをお勧めします。

長文になりましたが改めてこの筆をとる機会を与えていただいた緑丹会の先生とお声かけ頂いた中山先生に感謝します。

## ささやまOBによる“丹波篠山いいところ発見”

～元気にやっています～



岡山明洙

(JCHO神戸中央病院整形外科・H9卒・ラグビー部)

近鉄ライナーズ チームドクター

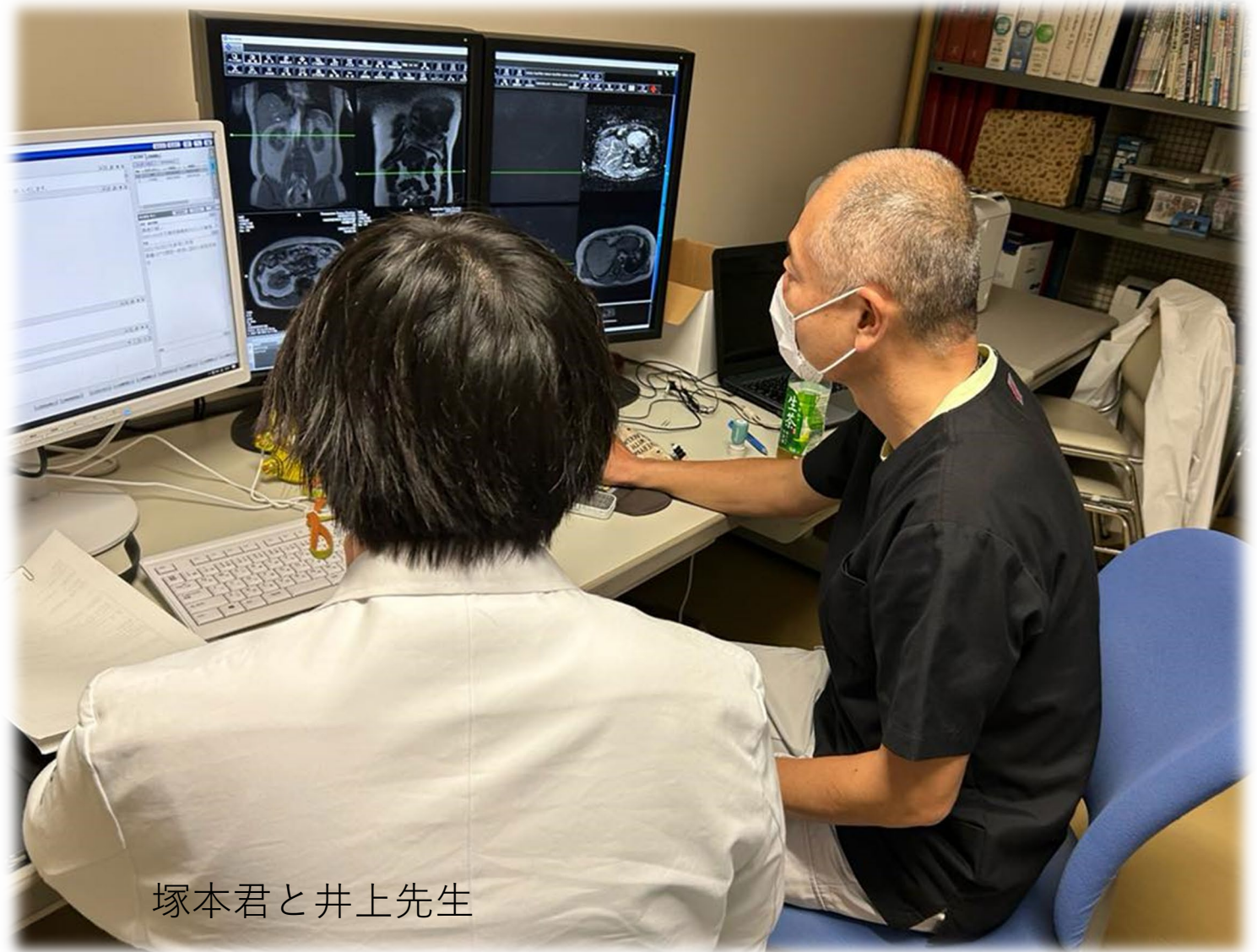
2007年3月に旧篠山病院に赴任し、新病院としてささやま医療センターに改称後、2021年3月で退職し、現在は神戸市北区鈴蘭台近くにある独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）神戸中央病院で勤務しております。大阪に生まれ育ち、農村で暮らすのは初めてのことでした。近隣の店に伺いたくさんの方々と知り合いになり交流していました。篠山という都会から比較的近いアクセスにあったもののあまり訪れる機会もなく（学生時代にはまだ兵庫医大が篠山病院を継承しておらずポリクリも当然なし）、都会育ちの私には正に田舎暮らしでした。地域の人と知り合う機会も多く、農家の方も紹介いただき現在も篠山のコメを定期的に購入し篠山の味覚のとりこになっております。また、仕事では赴任当初は研修制度が開始して間もない時期で、隣の丹波市の県立柏原病院、柏原赤十字病院は派遣元の大学が真っ先に派遣を縮小し、丹波地方の整形外科は医療崩壊真ただ中という状態でした。その中唯一というくらい機能していたのは兵庫医科大学篠山病院で外傷、慢性疾患の手術をする施設として上司の楊先生（故人）のご指導の下スタッフ一同頑張っていました。ささやま医療センターに改称し、新病院になり、楊先生も定年で退職後も継続して勤務し、県立柏原病院が柏原赤十字病院と統合し、丹波医療センターとして発足後は外傷はシェアする形になり必然的に症例数は減りましたが慢性疾患の人工関節手術はおおむね変わらず手術していました。コロナ禍で送別会などの会食の機会はほぼなく、緑丹会の先生方にはご挨拶することがほとんどなく篠山を去りはや1年半になりますが、神戸市北区という篠山ほど田舎ではないですが、ある意味閉鎖された医療圏の中で圏内の患者さんがわざわざ新神戸トンネルをくぐってまで受診しないで済むよう治療完結できるよう当院のスタッフも頑張っています。また先生方にも改めて拝眉の上お話する機会が来ることを祈念してご挨拶に代えさせていただきます。



## ささやま医療センター医学生通信



塚本君と中山



塚本君と井上先生

### ～放射線科井上先生との出会い～

塚本 翔一郎

(兵庫医科大学5年生・英語部/帰宅部)

私は5年次での臨床実習のため、この夏と冬合わせて1ヶ月半、篠山医療センターを訪れました。篠山は、暑い夏は蕎麦が美味しく、とても寒い冬は、猪鍋がとても美味しい。と、豊かな風土に基づいた食文化について述べる機会は別にして。

研修では、たくさんの先生方にお世話になりました。その中のお1人、本大学OB井上先生との思い出について書かせていただきます。

夏のある日、私が医局で課題レポートを作成していると、先生がこられて、『もし、興味があったら読影室に遊びにおいでよ』とおっしゃってくださいました。それが、先生との出会いでした。一度は行ったほうがいいかなと、恐る恐る訪れてお話しをしたところ、大学のOBであるばかりか、中高のOBでもありました。そこで、高校の話、大学生活の話し等、とても楽しい時間を過ごしました。そして、放射線の読影が苦手で苦勞している旨を相談させていただくと、『よし、分かった。教えたる。また、聞きにおいで』と快諾してくださいました。それから、毎日読影室を訪れ（先生もまさか毎日来るとは思われていなかったはず）、基礎的なことから始めてくださり、特徴、疾患での写り方などのポイントを丁寧に解説してくださいました。例えば、超急性期脳梗塞のDWIやFLAIR画像などの丁寧な解説、更にはT2 shine throughの話もしてくださいました。他にも、挙げればキリがありませんが、実際の症例で虫垂炎or憩室炎、前立腺癌or前立腺炎、硬膜下血腫or硬膜下水腫の鑑別など興味深いラインナップばかりでした。冬の再訪の際にも、温かく迎えてくださいました。そして、画像診断をさせていただき、先生は正しければ笑顔で褒め、間違えれば冗談交りに笑いながら解説して下さるので、とても楽しく学ばさせていただきました。このような貴重な機会をいただけたのは、井上先生をはじめ、後輩に対して愛を持って接して下さる先輩方のおかげです。

私が一人前の医師になったら、次は後輩のサポートに回れるようになりたいものです。



## Dr. Miyawaki ささやまフォトコラム

緑丹会副会長 宮脇 淳志  
 (兵庫医科大学ささやま医療センター副院長・H3年卒・写真部)



## ～実りの秋～

ささやま医療センターの裏の田んぼでは、黄金色の稲穂が揺れていました。まさに「瑞穂のくに」。秋は稲刈りのあと、いよいよ黒豆の収穫です



## ～もうすぐ秋本番～

西宮本院へ車で行った時、駐車場に停めて荷物を下ろそうと後に回ると篠山から一枚、お供がくっついてきてました。右はささやま医療センター正面玄関の植え込みです。もう真っ赤に色づいています。

## ～編集後記～

ささやまの秋は、黒豆・栗・山の芋などの特産品とともに訪れます。普段は静かなささやまの街ですが、この時期の週末は多くの観光客の方で賑わいます。そして、もう少し寒くなると牡丹鍋の季節です。今年はミシュラン星付の料亭“近又”で、牡丹鍋懐石を食べようと秘かに思っております。

緑丹会事務局 中山真美  
 (兵庫医科大学ささやま医療センター総合診療科・H9年卒・硬式庭球部)



兵庫医科大学同窓会  
**緑樹会**